

イスラームにおける経済システム

(上) : イスラーム経済の源



序説

イスラームは完全な人生の模範として、生活と社会のすべての面における指導基準や規制を設けています。当然ながら健康的な社会には、商品やサービスの消費、共通の媒体を使ったそれらの生産が、人々の物質的およびその他の面での人生のゴールを決めるという点において、機能する経済システムが必要です。

そのような経済システムが確立されるために、イスラームでは公正さと実用性に基づいた基準が設けられています。しかし、そのような基準が、お金を社会で最も重要なものとするとき、人々はお金が単に、神を崇拝するという本当の人間の目的の二次的目的にすぎないということを忘れてしまいます。

イスラームの経済システムは収入や支出、輸出入、その他の統計の正確な額はあまり気にしません。これらのことは間違いなく大切なものですが、イスラームは経済システムの精神的な部分をもっと大事にします。

イスラーム法を採用し、イスラームの行動規範を奨励する社会は、その社会が取り扱う社会・経済その他のシステムが包括的に考慮されていると分かるでしょう。イスラームでは、神は命を与えられた全ての人間に糧を与えると信じられています。それゆえ世界の自然の中に存在していると仮定される自然資源を取り争っているという考えは、間違いです。地球には人間を養うのに十分な資源があるのですから、私たち人間が考えることはそれをどう発見し、抽出し、処理し、それらを必要としている人々に配分するかということなのです。

イスラームには、個人と創造主との関係、個人とその他の人々との関係、個人と宇宙との関係、個人とその人自身との関係を正す教えがあります。そういう意味では、イスラームは人間の行動を規制します

し、その一部が経済活動なのです。イスラーム教徒は経済活動により、商品とサービスを生産、普及、消費します。イスラームにおいては経済活動であれ何であれ、人間の行動が価値観の無いものであったり、中立的価値観であったりすることはありません。それは信仰の理念的基礎とかかわり合っているのです。

イスラーム経済の源泉

イスラームの基本はクルアーンと預言者のスンナ¹であり、これらが経済活動のガイドラインや社会の経済システムの骨組みにおける規制を提供します。それゆえイスラームの経済システムの価値と目的は必ず、これらの源泉から導かれる基準に従っていなければなりません。この記事の目的は、イスラームの基本をもとにした経済システムの最も顕著な特徴をまとめることです。ここではイスラームのシステムの主な特徴に焦点をあてましょう。

イスラームの経済システムは、シャリーアと呼ばれる法規定群によって定義されます。シャリーアに含まれる規定には既に制定されているものもあれば調整可能なものもあり、つまり経済的な要素を作り上げる規定もあれば、それを制御する規定もあります。天啓の総括的な部分として、シャリーアは精神的、個人的、社会的、政治的、文化的そして経済的な、生活の全ての部分を包含しています。それが個人的なものであろうと、社会的、国家的なものであろうと、全ての行動にそれが違法か合法化という指針をつくっているのです。シャリーアには5つのタイプの規定があります。義務、奨励、許容、忌避、禁止です。それは経済活動も同じです。

イスラームのシャリーアの基本的な源泉はクルアーンとスンナで、人類の導きとして必要な全ての規定が含まれています。スンナはそれらの規定を、預言者ムハンマド（彼の上に神の祝福と慈悲あれ）の実践的行動によってさらに説明したものです。シャリーアの規定の展開と新しい状況におけるその適用は、学者間の合意と、推測、つまり以前存在した問題と新しく発生した問題の類似点を考察しつつ規定を導き出すこと、そして専門家の類推を材料として行われます。シャリーアは5つの源泉、つまりクルアーン、スンナ、学者間の合意、類推、明文の考察から成立するのであり、経済活動もこれらをもとにしています。

公正さ

おおむね、イスラームの経済システムは公正さを基準にしているといえます。イスラームの個人的・組織的な経済活動の規制は、公正さから理解できます。イスラームにおける公正は多面的な概念であり、

それを定義する言葉はいくつもあります。公正という概念を定義するのに最もよく使われるアラビア語単語は「アドル」です。この言葉の類似語の多くには「正しい」という意味も多くみられ、公平さ、ものを正しい位置に置く、平等、平等化、均衡、中庸、穏健などを意味します。実際に公正さとはシャリーアを基に行動することであり、本質的な公正さ²を手順として公正さが経済活動を規制します。本質的な公正さはシャリーアの本質を含み、手順としての公正さは様々な手順において法の本質に公正さがあるように確認するためのものです。経済における公正さという概念、配当の公正さ³は、イスラームの経済システムの中でも最も大事な要素の一つです。消費者、生産者、政府の経済活動に対しての許可と禁止、所有権、財産の生産と配当に関する規制は、イスラームにおける公正さをもとに作られているのです。

次の記事では、次の問題が議論されます。

個人の義務、権利、個人の利益

所有権

契約の重要性

仕事と財産

バラカという概念

経済的公正さ

利子（リバー）の禁止

競争と協力

国家の役割

Footnotes:

¹ スンナとは預言者の言葉、行動、判断を書き残した記録です。

² 本質的な公正とは正しい結果に到達することです。手順としての公平とは正しい方法で結果に到達することです（香港の政務官エルシー・ラング氏による演説「世界レベルでの効果的な仲裁方法」より）。

³ 需要が供給を上回ったときの、模範的な商品配当の仕方（スタンフォード哲学百科）。

(下) : その概念

経済活動の理念的基礎



イスラームにおける理念的基礎は6つの根本指針に集約することができます。

この基本理念は、宇宙の創造主として、主として、権力者としての神を信仰するところから、全ては始まらなければいけないということです。それは神の意思に従

い、彼の導きを受け入れ、完全に神に服従することを意味します。つまりイスラーム教徒は個人としても社会としても、例えば利子などといった、イスラームとは別の社会のシステムを真似したり手本としたりするべきではないのです。

第二の理念は、イスラームが宗教であり、完全な生き方であるということです。つまり、モラル的、社会的、道徳的、経済的、政治的な面を含む、人間の人生のあらゆる面における導きです。これらの面は神からの導きを基としています。それゆえ、ある部分は受け入れ、他の部分は受け入れないといった個人的好みは問題外です。全ては、この基本から成り立たなければなりません。

“それでわれは、凡ての事物を解き明かす啓典をあなたに下し、信者への導きと慈悲、そして吉報としたのである。”（クルアーン16章89節）

3つめの理念は、神は人間を彼の代理人として作ったのであり、すべての人間はこの地球で何らかの義務を果たす為に作られたということです。神は人間たちが彼自身が与えたモラルと道徳心に基づいて人々が生きる為に、人間に自由意志を与えました。さらにはイスラームでは物質的発展の機会も設けており、モラル・社会・物質的発展が調和して成されるようにされています。

4つめの理念は、神は人間が代理人としての役割を果たす為に、宇宙のすべてを人間に役立つように作ったということです。クルアーンにはその趣旨を示した多くの節があります。

“神こそは海をあなたがたに従わせられた方で、かれの御命令によって、船はそこを航行し、あなたがたはかれの恩恵（の通商往来）を追求する。それであなたがたは、感謝するであろう。”（クルアーン45章12節）

しかし、人間が神によって与えられた資源を好きなように利用したり、悪用したりする支配権を持っているということではありません。

むしろクルアーンの多くの節には、人間は神が地球に用意した資源に対して責任を持って利用するように、と書かれてあります。人々は神が与えた良いものを楽しむように奨励されていますが、それは彼の示した限度を知った上でのことです。良いものを楽しむことは、神の道に従い、彼の示した限度を超えなければ罪とはされません。神はこう言いました。

“かれこそは棚を備えた果樹園，また棚のない果樹園を創られる御方であり，またナツメヤシや様々な味の異なった農作物，とオリーブ，ザクロその外同類異種のものをも（創られた御方である）。実が熟したならば食べなさい。収穫の日には，定めのご喜捨を供出し，浪費してはならない。本当にかれは，浪費の徒を御愛でになられない。”（クルアーン6章141節）

5つめの理念は、死後の世界での清算についてのものです。神は人間に代理人としての役割と資源を与えました。つまり全ての人間は審判の日に、地上での生活を楽しんでいる間どのようにふるまったかということ問われるのです。それは経済活動でも同じことです。神はこう言いました。

“その日あなたがたは，（現を抜かしていた）享樂に就いて，必ず問われるであろう。”（クルアーン102章8節）

6つめの理念は、財産の有無は人間の優劣を左右しないということです。貧困や富は神の意思であり、神はかれの限りない公正さと智慧によりこれらのことを決めているのです。

“神は御心に適う者に豊かに糧を与え，また乏しくも授けられる。”（クルアーン13章26節）

富は貧困と同じように、神からの試練です。つまり、その富で豪遊するか、宗教で立法化されたように賢く使うか、その富で試されているのです。神は言いました。

“あなたがたの富や子女は，一つの試みに過ぎない。神の御許に（だけ）偉大な報奨はある。”（クルアーン64章15節）

地上でこの上ない王権と多くの富と才能を与えられたあと、ソロモンはクルアーンの中でこう言っています。

“これはわたしの主の御恵み。わたしが感謝するか，または恩知らずかを試みられるためです。”（クルアーン27章40節）

神はその人がいくら財産を持っているか、容姿や肌の色を見ているわけではなく、彼にとっての栄誉の基準はその人の心にある信仰心なのです。神はこう言っています。

“人びとよ、われは一人の男と一人の女からあなたがたを創り、種族と部族に分けた。これはあなたがたを、互いに知り合うようにさせるためである。神の御許で最も貴い者は、あなたがたの中最も主を畏れる者である。本当に神は、全知にして凡ゆることに通暁なされる。”（クルアーン49章13節）

預言者はこう言いました。

“神はあなたの容姿や財産を見ているのではなく、あなたの心と行いを見ているのです。”（サヒーフムスリム）

すでにお察しのように、イスラームにおける経済システムとは、その価値観が全く違うため、他のシステムとは全く異なったものです。資本主義では、そのシステムの本質と価値観から、モラルや道徳よりいくつかの経済システムが先行することがあります。共産主義、社会主義や他の経済システムでも同じことでしょう。この記事で取り上げられた理念から、イスラームの経済システムでは個人と社会全体の利益の均衡を考慮しつつ、世俗的な利益と精神的な利益のいずれも、そして宇宙の主である神の喜びをえることができるのです。